



2019年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年4月26日

上場会社名 ビーピー・カストロール株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5015 URL <http://www.bpcastrol.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小石孝之
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務経理部長 (氏名) 渡辺克己 (TEL) 03-5719-7870
 四半期報告書提出予定日 2019年5月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第1四半期の業績 (2019年1月1日~2019年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第1四半期	2,745	2.3	528	8.9	530	7.2	354	5.7
2018年12月期第1四半期	2,683	△2.7	485	△29.0	494	△28.1	335	△28.5
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2019年12月期第1四半期	15.45		—					
2018年12月期第1四半期	14.62		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年12月期第1四半期	12,803	10,490	81.9
2018年12月期	14,151	11,122	78.6

(参考) 自己資本 2019年12月期第1四半期 10,490百万円 2018年12月期 11,122百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	32.00	—	43.00	75.00
2019年12月期	—	—	—	—	—
2019年12月期(予想)	—	35.00	—	40.00	75.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年12月期の業績予想 (2019年1月1日~2019年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,893	0.5	991	△16.3	1,008	△15.5	685	△13.3	29.86
通期	12,729	0.4	2,459	1.1	2,494	1.3	1,695	2.8	73.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料5ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2019年12月期 1 Q	22,975,189株	2018年12月期	22,975,189株
---------------	-------------	-----------	-------------

② 期末自己株式数

2019年12月期 1 Q	17,371株	2018年12月期	17,371株
---------------	---------	-----------	---------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2019年12月期 1 Q	22,957,818株	2018年12月期 1 Q	22,957,818株
---------------	-------------	---------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	P. 3
(1) 四半期貸借対照表	P. 3
(2) 四半期損益計算書	P. 4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	P. 5
(継続企業の前提に関する注記)	P. 5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 5
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	P. 5
(追加情報)	P. 5

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢の改善や設備投資の増加などにより、景気は引き続き緩やかに回復しております。一方海外経済においても全体的には緩やかな景気回復が見られるものの、米中間の貿易問題や英国のEU離脱問題、中国を始めとする新興国経済の鈍化など、依然として不透明な状況となっております。

原油価格は2018年末に一時下降したものの、2019年初より上昇基調で推移しております。また、自動車業界におきましては、新車販売台数は普通車・軽自動車共に前年実績の微減という結果になり、厳しい事業環境が継続しております。

このような市場環境の下、自動車用潤滑油の販売面では、当社の強みであり消費者の関心も高い環境配慮型の低粘度・省燃費プレミアムエンジンオイル、トランスミッションオイルの積極的な拡販に引き続き焦点を当て、環境への配慮を表す特色として「CO₂ニュートラル(※)」コンセプトも前面に出しながら、当社旗艦製品である「カストロールエッジ」および「カストロールマグナテック」ブランドを中心に製品付加価値の訴求を行いました。昨年末から1月中旬にかけてカーショップチャンネルで実施した店頭プロモーションにおいても、「カストロールエッジ」にフォーカスし、流通パートナー様のご協力のもと、販売促進に取り組みました。またオイル交換時に手軽にエンジン内部を洗浄できるという特長を持つエンジンシャンプーを中心としたエンジンオイル関連製品の拡販にも、継続して注力いたしました。

これらの結果、当第1四半期累計期間における売上高は2,745百万円、営業利益は528百万円、経常利益は530百万円、四半期純利益は354百万円となりました。

(※) CO₂ニュートラルとは、製品から排出されるCO₂のうち自らの活動だけでは削除できない分を、温室効果ガス排出削減プロジェクトへの投資活動を通じ相殺し、大気中に排出されるCO₂を実質ゼロにする取り組みです。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は、11,921百万円(前事業年度末は13,346百万円)となり、1,425百万円減少いたしました。これは、主に受取手形及び売掛金(540百万円の減少)、短期貸付金(698百万円の減少)及び未収入金(92百万円の減少)によるものです。(なお、貸付金の内容は、BPグループのインハウス・バンクを運営しているビーピー・インターナショナル・リミテッドに対するものであります。)

(固定資産)

当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は、882百万円(前事業年度末は804百万円)となり、77百万円増加いたしました。これは、主に投資その他の資産(55百万円の増加)によるものです。

(流動負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は、2,295百万円(前事業年度末は3,012百万円)となり、716百万円減少いたしました。これは、主に買掛金(406百万円の減少)、未払金(241百万円の減少)、未払費用(167百万円の増加)及び未払法人税等(232百万円の減少)によるものです。

(固定負債)

当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は、17百万円(前事業年度末は17百万円)となり、0百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、10,490百万円(前事業年度末は11,122百万円)となり、631百万円減少いたしました。これは、主に利益剰余金が四半期純利益により354百万円増加し、剰余金の配当により987百万円減少したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年12月期の業績予想につきましては、2019年2月1日公表の業績予想に変更はございません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	143,049	112,589
受取手形及び売掛金	2,518,370	1,978,172
電子記録債権	27,569	21,564
商品及び製品	785,845	710,852
原材料及び貯蔵品	24,457	22,394
前払費用	19,785	35,272
短期貸付金	9,226,064	8,527,521
未収入金	594,630	501,640
その他	6,725	11,280
流動資産合計	13,346,497	11,921,288
固定資産		
有形固定資産	196,222	219,399
無形固定資産	8,631	7,397
投資その他の資産	599,766	655,627
固定資産合計	804,620	882,423
資産合計	14,151,117	12,803,711
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,079,884	673,629
未払金	955,781	713,801
未払費用	403,947	571,829
未払法人税等	417,661	185,641
預り金	11,726	105,407
賞与引当金	140,324	43,002
その他	2,676	2,647
流動負債合計	3,012,003	2,295,960
固定負債		
その他	17,092	17,093
固定負債合計	17,092	17,093
負債合計	3,029,095	2,313,053
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,491,350	1,491,350
資本剰余金	1,749,600	1,749,600
利益剰余金	7,873,618	7,241,182
自己株式	△6,859	△6,859
株主資本合計	11,107,709	10,475,273
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	14,312	15,385
評価・換算差額等合計	14,312	15,385
純資産合計	11,122,021	10,490,658
負債純資産合計	14,151,117	12,803,711

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自2018年1月1日 至2018年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自2019年1月1日 至2019年3月31日)
売上高	2,683,674	2,745,753
売上原価	1,285,564	1,417,003
売上総利益	1,398,110	1,328,750
販売費及び一般管理費	912,860	800,537
営業利益	485,249	528,212
営業外収益		
受取利息	5,951	2,085
受取手数料	3,104	2,841
受取補償金	226	944
為替差益	4,606	257
雑収入	439	10,342
営業外収益合計	14,329	16,472
営業外費用		
売上割引	4,633	—
雑損失	—	14,345
営業外費用合計	4,633	14,345
経常利益	494,944	530,339
特別利益		
固定資産売却益	1,873	—
特別利益合計	1,873	—
特別損失		
特別退職金	—	6,595
特別損失合計	—	6,595
税引前四半期純利益	496,817	523,744
法人税等	161,164	168,994
四半期純利益	335,653	354,749

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。